

全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会発足 10 周年記念

第 10 回全国若年認知症フォーラムin北海道・札幌 報告

— 困難から希望を創る —

特定非営利活動法人 若年認知症サポートセンター

全国、道内各地から 570 名の方が参加し成功裡に終わる

■2019 年3月 10 日、教育文化会館大ホールにおいて全国若年認知症フォーラムを開催しました。こ



このフォーラムは、全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会が主催し毎年1回、各地で持ち回り開催をしています。記念すべき第10回をこの協議会に加わっている、北海道若年認知症の人と家族の会が中心となり事務局を担い、前年に結成した道内の若年認知症の家族会・支援者の会「若年認知症北海道連絡会」と共に協力し準備委員会をスタートさせた。顧問として砂川市立病院認知症疾患医療センター長の内海久美子先生の後押しをいただき、北海道らしい企画で開催することができました。

■たくさんの会員の皆様が手伝いの協力



心配していたお天気は温かな陽ざしの好天でひと安心、家族やサポート会員、関係者、大学や専門学校の学生などのボランティアスタッフ 70 名ほどが早朝に集合し、僅か 30 分ほどの短時間で準備をし、開会の幕をあげました。全国各地から 570 名の参加で、準備した配布資料入りの手つき袋が足りなくなる程で、皆様の関心の高さに驚きました。

■来賓挨拶 北海道や札幌市からお祝いの言葉をいただきました。



大会長
宮 永和 夫



道 少 子 高 齢 化 対 策
監 粟 井 是 臣



札幌市副市長
岸 光 右 氏

<アンケートから>

- *さまざまな方が若年認知症に関わる発表を行い、若年認知症の方や家族の方が、決して暗い未来ばかりではないということが伝わってきた意義深いフォーラムだったと思います。
- *とても良い研修でした、日頃のケアに活かされる内容だったことに感謝です。
- *夜勤明けで休もうと思ったけど来てよかったです。
- *認知症専門士の資格を取りましたが、教科書上の勉強ばかりで、今回のような現場の声を聴くと、もっともっと学び、これからの社会に、寄与で

★若年認知症の支援と今後の方向
厚労省老健局長 大島一博氏



＜アンケートから＞

- * 地域の支援チーム構築について、とても興味深かった。
- * 若年性認知症支援コーディネーター・認知症地域支援推進員の連携強化が必要と感じた。行政、医療、福祉の分野だけでなく、地域生活に関わる企業、団体に認知症の理解を働きかけ、認知症の人もそうでない人も住みやすい社会づくりに取り組んでいることがわかった。
- * 都会では様々な取り組みが実現されていることがわかった。地方に

★「医療において若年性認知症の人と家族が抱える困難さ」

砂川市立病院認知症疾患医療センター長 内海久美子氏

座長 高丸勇司氏



＜アンケートから＞

- * 豊富な事例から、どの方にもどの家族にも、大きな困難があると伝わりました。しかし先生のような医療者、支援者、地域に家族会があれば、独りではないと感じられると思いました。
- * 各事例、とても理解しやすく、誤診についても、長く診療されて、また、先生だから語れたと思う。何と言っても、本人と同じく家族を支えることの大切さを、医師の立場で話していただいたのは、すごくうれしかった。

★家族・支援者からのメッセージ

座長 小野寺敦志氏

「若年認知症の困難と私たちの期待」北海道ひまわりの会事務局長 平野憲子氏

「若年認知症家族会と支援者の活動の果たしてきた役割と全国連絡協議会からの提言」

全国連絡協議会会長 宮永和夫氏



＜アンケートから＞

- * 症状が進行するにつれて、どのような困難があり、どのような支援が必要なのか、非常に勉強になりました。必要な支援、制度、施策などざっと流れを確認できました。
- * 提言として、とっても重みのある内容でした。「これから」を考える為に、まだまだやるべきことがあると考えさせられました。



★若年認知症ケアへの挑戦—本人と家族の支援を通して—

認知症対応型デイサービス管理者 岡田京子氏

座長 池田 望氏



＜アンケートから＞

- * ひとりひとり、ケアの内容が違って、その人その人に合ったケアを考えてためしてみることで、すごく大切なんだなと思った。介護度が高いからといって、できないことはないんだということが、わかりました。
- * 事例からの対応、面白く伝えていただいた。全てに根拠があり、一人で考えこまないように職員だけでなく、家族と本人と共に考えていくことが、大切だと思った。

★10年リレートーク 広大な北海道に本人・家族支援のネットワークを構築する
 —私たちが悩み、考え、手をつないでいくこと— 座長 長井卷子氏



行政の立場から
 北海道 地域包括ケア担当課長 後藤琢康氏
 札幌市 認知症支援・介護予防担当課長 關靖子氏
 北海道ひまわりの会 川窪みどり氏
 北見たんぽぽ 代表 福島恵美子氏
 旭川ひまわりの会会長 伊藤勝治氏
 東胆振ひまわりの会会長 横山重雄氏
 空知ひまわり 代表 干場 功氏



＜アンケートから＞

- * 色々な話を聞いて良かったです。ご家族様の苦悩もわかり、まだまだ認知症を理解し、知ってもらわないといけないと思いました。
- * 家族の生の声を聴いて、とても胸がなりました。同時に家族会が大きなサポートになっていることも、わかりました。もっと増えてほしいです。
- * 行政、支援者、当事者の方からのそれぞれの取り組みについて、聴くことができ参考になりました。フォーマルなサービスはもちろん必要ですが、インフォーマルな支援、つながりがご本人、ご家族に光を照らし支えているのだと感じました。



展示コーナーでは当会の手芸作品や

道内初めての「子ども世代のつどい」開催

フォーラムの終了後、楽屋の一室で、親が若年認知症となった「子ども世代のつどい」を開催しました。これまで当会でも開催したいと思っていましたが実施できませんでした。東京の家族会「まりねの会」の呼びかけで企画し、旭川、苫小牧からも来て9名の子ども(20～40代)と支援者6名が集いました。親や友人にも話すことはできず、子どもなりに悩んできたことが話されていました。“今後、一人で悩まず、ラインやフェイスブックでつながり、交流していきましょう”とのアピールがありました。

前日、盛大に懇親会開催、91名集まる

3月9日、午後6時半より市内のホテルにおいて全国の若年認知症家族会、当会の支援者・家族の方々が参加され、テーブルのあちこちで賑やかに名刺交換・交流をされていま

<フォーラム取り組みの経過>

1. 打合せ会議

- 準備委員会 第1回 5月16日 テーマ、企画について協議
- 第2回 8月21日 プログラムの骨子協議
- 第3回 3月29日 準備委員反省会
- 2018年9月16日 協議会役員会(東京)に参加 企画、プログラムについて案を報告 確認
- 11月30日 本部事務局と打ち合わせ会議 札幌にて
- 2019年2月10日 2月21日 会場見学: 動画試写 3月6日
- 3月9日 本部協議会役員会 ひまわりの会事務所

2. 準備

- ・後援依頼・承諾 9月～ 24 団体
- ・協賛依頼 11月～ 承諾 31 団体・個人
内科クリニック、製薬会社3社、他関係機関、ひまわりの会賛助会員など
- ・全国若年認知症フォーラムのチラシデザインの検討 8月～9月 プログラム確定 10 月下旬
- ・チラシ印刷納品 11月30日 3000 枚+1000 枚(追加)
- ・参加申し込み開始 12月2日～ ホームページに掲載、ファックス申込み受け付け、名簿作成(有料)は業者
- ・配付資料作成 500+100 部(追加)

3. 当日

- ・参加者 570 名
- ・会場サポーター 69 名ー当会サポーター会員、賛助会員とその事業所、道内ひまわりの会のメンバーの協力
- ・出展 13団体・出展料9団体
- ・参加者アンケート 174 名 回収率 31%
- ・認知症ケア専門士 証明発行 77 名

- 4. 他 懇親会 前日3月9日 札幌ガーデンパレス …参加 91名(道外 50 名、協議会加盟 20 団体参加)
こども世代のつどい 3月10日 17時～19時 楽屋
主催「若年認知症と向き合う子ども世代のつどいまりねっこ」
協力 ひまわりの会より会員家族に呼びかけ 24 名 参加 子ども9名 サポーター6名

<参加申込み名簿から申込み者の集計>

参加申込み名簿より (受付事務 2/28 まで延長;)531名 欠席申し込み 11 名 計 520 名

所属 福祉専門職 214 名 医療専門職 107

行政 42 一般 141 未記入 16 計 520 名

地域 <道内 459 名 道外 60 不明 1 >

●道内 459 名

宗谷1 留萌6 上川 25 オホーツク 14 釧路 10 十勝 15 石狩 302 空知 38 後志 11
胆振 24 日高 2 渡島 11 根室 0 桧山 0

●道外 60

青森 4 秋田 1 新潟 3 東京 13 千葉 2 埼玉 1 茨城 2 神奈川 8
静岡 2 奈良 1 大阪 6 三重 10 広島 2 鳥取 1 福岡 3 長崎 1